ディーゼル燃焼チーム クラスター大学(12) (グループ4) 東京工業大学工学院システム制御系 佐藤 進, 小酒 英範, 長澤 剛, Pop-Paul Ewphun, 小竹 視久, 吉澤 京介

超高圧噴射によるPCCI燃焼制御

研究の目的と位置付け

✓超高圧パルス噴射燃焼によるPCCI燃焼運転領域の拡大

- 1サイクル中の燃料噴射多段化+超高圧燃料噴射
- 多段化した各噴霧燃焼では予混合的燃焼を実現しつつ全体の



燃焼期間は長期化せずに燃焼時期を上死点付近に設定可能 ✓ 噴孔オフセットノズルによる混合気制御

- ねらいどころ:噴孔径を絞らず(各段の噴射期間は延ばさず)に, ペネトレーションを抑制.噴霧周辺の空間利用率を向上させる → 中低負荷条件における超高圧パルス噴射燃焼への適用,
 - および通常ディーゼル燃焼への適用も調査

研究の方法 単気筒エンジンで用いるノズル形状 単気筒エンジンシステム 噴孔径, 座繰り有無の検討 噴孔オフセットノズルのねらい Fuel tank 噴霧形状 噴孔配置 Surge H Flow-tank meter Motor Supply 7.758e+00 7.273e+00 6.788e+00 valve #1 Gas Analyzer 🗖 2nd commor **φ0.123×8 CW φ0.123×8 CCW** _____ EGR valve #2 Back-press. (スワール順方向)(スワール逆方向) 1. 根元の空気利用率向上 2.424e+002 1.455e+002 9.697e+001 中低負荷条件:超高圧パルス噴射への適用 2. 小径キャビティ使用時の 4.848e+001 0.000e+000 噴霧先端到達距離の抑制 低負荷~高負荷条件:通常ディーゼル燃焼への適用 PXI system PC Dynamo-meter 噴孔径を絞らず、L/DをStandardと合わせ、 ノズル形状と燃料噴射圧力がエンジン性能,排気性能

に及ぼす影響を調査

1.3

使用ピストン(TS60), 実験条件

Point4

Point4

Combustion efficiency [%]

Exhaust loss [%]

1500 rpm 0.39 MPa

50°C

0.10 Mpa

0.10 MPa

30°C

1.3

 $50 \pm 10 \text{ ppm}$

90, 150, 200, 250

300, 350 Mpa

Pilot: -10 deg.ATDC

Pre: -2.5 deg.ATDC

Main: 4 deg.ATDC

Engine speed

gIMEP

Intake temperature

Intake pressure

Exhaust pressure

Fuel temperature

Swirl ratio

NOx emission

njection Pressure

Injection

timing

gITE [%]

従 来

ズ

オ フ

50

主な成果





噴孔出口における速度分布を幅を持たせる

低負荷~高負荷条件:通常ディーゼル燃焼への適用性 \checkmark



✓ 通常ディーゼル燃焼へオフセットノズルを適用した場合, 負荷条 件によって熱効率改善の効果が逆となる.低負荷(Point4)では, オフセットノズル,特にCWノズルで熱効率が改善された.しかし



今後の展開



- 高負荷(Poin1)では、Standardノズルが最も熱効率が高い. ✓ Smokeについては、負荷によらずオフセットノズルは排出量が高 くなる傾向が見られた.
- ✓ 今後, オフセットノズルの噴霧挙動を可視化エンジン実験により 明らかにし、さらにスワール強さに対するオフセットノズルの効果 を確認する、それらの結果を基にオフセットノズルが適する負荷 条件などを最適化する.
- ▶ 超高圧燃料噴射に適した燃焼系設計指針の提示(グループ4として) ▶ 噴霧計測結果を基にした超高圧噴射最適燃焼室形状設計(グループ4として) ▶ 噴孔オフセットノズル使用時の噴霧挙動, 混合気形成過程を可視化エンジンにより調査 ▶ スワール強さとオフセットノズルのマッチングを確認

